

2022年3月3日

(2022年3月2日米国報道発表資料抄訳)

Okta Japan 株式会社

報道関係者各位

【抄訳】Okta、好調な第4四半期決算と2022年度通期の業績を発表

- 第4四半期の売上高は前年同期比63%増、サブスクリプション収益は前年同期比64%増
- 2022年度の売上高は13億ドル、前年比56%増、サブスクリプション収益は前年比57%増
- 残存パフォーマンス義務（RPO）は前年同期比50%増の26.9億ドル、現在の残存パフォーマンス義務（cRPO）は前年同期比60%増の13.5億ドル

アイデンティティ管理サービスのリーディングカンパニーである Okta, Inc.（本社：米国・サンフランシスコ 以下 Okta）は本日、2022年1月31日に終了した第4四半期と通期の決算を発表しました。

Okta の最高経営責任者（CEO）兼共同創業者であるトッド・マッキノン（Todd McKinnon）は次のように述べています。「アイデンティティ管理は、急速に進化する今日のセキュリティ環境の最前線に位置しています。経営幹部や開発者は、従業員や顧客があらゆるテクノロジーを安全に利用できる自由を提供するために、ますます Okta を利用するようになってきました。当社は、ワークフォースソリューションと、Okta と Auth0 の顧客向けアイデンティティソリューションにおける強力な実行力と堅調な需要により、トップライン指標で 2022 年度通期を終了しました。Okta は、クラウドとハイブリッド IT、デジタルトランスフォーメーション、ゼロトラストセキュリティという 3 つのメガトレンドに後押しされて拡大し続ける巨大市場に対して、クラウドネイティブのアイデンティティ管理ソリューションプラットフォームを提供しています。」

2022 年度第 4 四半期決算のハイライト

- **売上高**：総売上高は、前年同期比 63% 増の 3 億 8,300 万ドルでした。サブスクリプション収益は 3 億 6,900 万ドルで、前年同期比 64% 増。Okta 単独ベース（Auth0 に帰属する 5,600 万ドルを除く）では、総売上高は 39% 増加しました。

- **残存パフォーマンス義務 (RPO)** : RPO もしくはサブスクリプション収入バックログは、前年同期比 50% 増の 26 億 9,000 万ドルとなりました。今後 12 ヶ月間に認識される予定の契約サブスクリプション収益である現在の RPO は、2021 年度第 4 四半期と比較して 60% 増の 13 億 5,000 万ドルとなりました。
- **計算上の請求額** : 獲得した繰延収益を差し引いた計算上の請求額は、前年同期比 91% 増の 6 億 300 万ドルでした。計算上の請求額には、2022 年度第 1 四半期末に実施された請求プロセスの改善による影響が含まれています。これらの改善を除くと、計算上の請求額は 5 億 4,000 万ドルとなり、前年同期比で 71% 増加しました。
- **GAAP ベースの営業損失** : GAAP ベースの営業損失は、2021 年度第 4 四半期の 5,500 万ドル (総売上高の 23%) に対し、2 億 1,400 万ドル (総売上高の 56%) となりました。
- **非 GAAP ベースの営業利益/損失** : 非 GAAP ベースの営業損失は、2021 年度第 4 四半期の非 GAAP ベースの営業利益 800 万ドル (総売上高の 3%) に対し、2,400 万ドル (総売上高の 6%) となりました。
- **GAAP ベースの純損失** : GAAP ベースの純損失は、2021 年度第 4 四半期の 7,600 万ドルに対し、2 億 4,100 万ドルでした。1 株当たり GAAP ベースの純損失は、2021 年度第 4 四半期の 1 株当たり GAAP ベースの純損失は 0.58 ドルに対し、1.56 ドルでした。GAAP ベースの純損失および 1 株当たり GAAP ベースの純損失には、2022 年度第 4 四半期の Auth0 に帰属する 1 億 1,500 万ドルおよび 0.74 ドルがそれぞれ含まれています。
- **非 GAAP ベースの純利益/損失** : 2021 年度第 4 四半期の非 GAAP ベースの純利益が 800 万ドルであったのに対し、非 GAAP ベースの純損失は 2,900 万ドルとなりました。2021 年度第 4 四半期の非 GAAP ベースの基本的および希薄化後の 1 株当たり純利益は 0.06 ドルに対し、非 GAAP ベースの基本的および希薄化後の 1 株当たり純損失は 0.18 ドルでした。
- **キャッシュフロー** : 営業キャッシュフローは、2021 年度第 4 四半期の営業キャッシュフローが 3,500 万ドル (総売上高の 15%) に対し、1,400 万ドル (総売上高の 4%) となりました。フリーキャッシュフローは、2021 年度第 4 四半期の 3,200 万ドル (総売上高の 14%) に対し、500 万ドル (総売上高の 1%) でした。
- **現金、現金同等物、短期投資** は、2022 年 1 月 31 日時点で 25 億ドルでした。

2022 年度通期決算のハイライト

- **売上高**：総売上高は、前年同期比 56%増の 13 億ドルでした。サブスクリプション収益は 12 億 5,000 万ドルで、前年同期比 57%増。Okta 単独ベース（Auth0 に帰属する 1 億 4,000 万ドルを除く）では、総売上高は 39%増加しました。
- **計算上の請求額**：計算上の請求額の合計は、17 億 2,000 万ドルで、前年同期比 76%増となりました。計算上の請求額には、2022 年度第 1 四半期末に実施された請求プロセスの改善効果が含まれています。これらの改善を除くと、計算上の請求額は 15 億 7,000 万ドルで、前年同期比 60%増となります。
- **営業利益／損失**：GAAP ベースの営業損失は、2021 年度の GAAP ベースの営業損失 2 億 400 万ドル（総売上高の 24%）であったのに対し、7 億 6,700 万ドル（総売上高の 59%）でした。2021 年度の非 GAAP ベースの営業利益 800 万ドル（総売上高の 1%）であったのに対し、非 GAAP ベースの営業損失は 7,400 万ドル（総売上高の 6%）でした。
- **GAAP ベースの純損失**：2021 年度の GAAP ベースの純損失 2 億 6,600 万ドルに対し、GAAP ベースの純損失は 8 億 4,800 万ドルでした。1 株当たり GAAP ベースの純損失は、2021 年度の 1 株当たり GAAP ベースの純損失は 2.09 ドルに対し、5.73 ドルでした。GAAP ベースの純損失および 1 株当たり GAAP ベースの純損失には、Auth0 に帰属する 3 億 8,500 万ドルおよび 2.60 ドルがそれぞれ含まれています。
- **非 GAAP ベースの純利益／損失**：非 GAAP ベースの純損失は、2021 年度の非 GAAP ベースの純利益は 1,600 万ドルに対し、6,800 万ドルでした。非 GAAP ベースの基本的および希薄化後 1 株当たり純損失は、2021 年度の非 GAAP ベースの基本的および希薄化後 1 株当たり純利益がそれぞれ 0.13 ドルおよび 0.11 ドルであったのに対し、0.46 ドルとなっています。
- **キャッシュフロー**：営業活動によるキャッシュフローは、2021 年度の 1 億 2,800 万ドル（総収入の 15%）に対し、1 億 400 万ドル（総収入の 8%）でした。フリーキャッシュフローは、2021 年度の 1 億 1,100 万ドル（総収入の 13%）に対し、8,700 万ドル（総収入の 7%）でした。

以下の「非 GAAP ベースの財務指標」の項では、非 GAAP ベースの財務指標に関する説明を行い、GAAP ベースの情報と非 GAAP ベースの情報との調整を以下の表に示しています。

Press Release



業績見通し

Okta の 2023 年度第 1 四半期および通期の業績見通しには、Auth0 の買収による予想貢献額（購入会計調整額控除後）が含まれています。

2023 年度第 1 四半期について、当社は以下を見込んでいます。

- 総売上高は 3 億 8,800 万ドルから 3 億 9,000 万ドルで、前年同期比で 55%の成長率
- 非 GAAP ベースの営業損失が 5,100 万ドルから 5,000 万ドル
- 加重平均発行済株式数を約 1 億 5,500 万株と仮定した場合の非 GAAP ベースの 1 株当たり純損失は 0.35 ドルから 0.34 ドル

2023 年度通期については、現在、以下を見込んでいます。

- 総売上高は 17 億 8,000 万ドルから 17 億 9,000 万ドルで、前年比 37%から 38%の成長率
- 非 GAAP ベースの営業損失は 1 億 8,500 万ドルから 1 億 8,000 万ドル
- 加重平均発行済株式数を約 1 億 5,700 万株と仮定した場合の非 GAAP ベースの 1 株当たり純損失は 1.27 ドルから 1.24 ドル

これらの記述は将来の見通しであり、実際の結果は大きく異なる可能性があります。実際の結果がこれらの将来の見通しに関する記述と大きく異なる原因となりうる要因については、以下の「将来の見通しに関する記述のセーフハーバー」を参照してください。

Okta は、Non-GAAP 営業損失および Non-GAAP1 株当たり純損失に関する予想を、最も直接的に比較可能な GAAP 指標に調整していません。なぜなら、特定の項目は Okta が制御できないか、合理的に予測できないからです。したがって、将来の Non-GAAP 営業損失および 1 株当たり Non-GAAP 純損失の調整は、不合理な努力なしにはできません。

補足的な財務情報およびその他の情報

補足財務情報およびその他の情報は、当社の投資家向けウェブサイト（investor.okta.com）からアクセスできます。

Press Release



非 GAAP 財務指標

本プレスリリースには、非 GAAP 型売上総利益、非 GAAP 型売上総利益率、非 GAAP 型営業利益（損失）、非 GAAP 型営業利益率、非 GAAP 型純利益（損失）、非 GAAP 型純利益率、基本および希薄化後の 1 株当たり非 GAAP 型純利益（損失）、フリーキャッシュフロー、フリーキャッシュフローマージン、現在算出されている請求額、算出された請求額の非 GAAP 型財務指標が含まれています。これらの非 GAAP ベースの財務指標の一部には、株式ベースの報酬、現金支出を伴わない慈善寄付、買収した無形資産の償却、買収・統合関連費用、債務割引および債務発行費用の償却、債務の早期消滅および転換に関する損失が含まれていません。

Okta は、Non-GAAP 財務情報を GAAP 財務指標と合わせて考えると、過去の財務実績との一貫性と比較可能性が得られ、他社との比較に役立つため、投資家にとって有用であると考えています。他社の中には、GAAP 業績を補完するために同様の Non-GAAP 財務情報を使用している企業もあります。Non-GAAP 財務情報は、補足的な情報提供のみを目的として表示されており、GAAP に則って表示される財務情報の代替となるものではなく、他社が使用する同様のタイトルの Non-GAAP 指標とは異なる可能性があります。

これらの Non-GAAP 財務指標の主な制約は、GAAP では当社の財務諸表に計上が義務付けられている重要な費用が除外されていることです。さらに、これらの Non-GAAP 財務指標は、これらの Non-GAAP 財務指標を決定する際にどの費用を除外または含めるかについての当社の経営陣の判断を反映しているため、固有の制限があります。各 Non-GAAP 財務指標について、GAAP に準拠して表示される最も直接的に比較できる財務指標との調整を以下に示します。

Okta は投資家に対して、関連する GAAP ベースの財務指標と、本プレスリリースを含む四半期決算発表のプレスリリースに記載されている、これらの Non-GAAP ベースの財務指標と最も直接的に比較できる GAAP ベースの財務指標との調整を確認し、当社の事業を評価するために単一の財務指標に依存しないことを推奨します。

将来予想に関する記述

このプレスリリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）のセーフハーバー条項に規定される意味での「将来予想に関する記述」が含まれています。これには、当社の財務見通し、事業戦略および計画、市場動向および市場規模、機会および位置づけ、Auth0 社との取引から得られる期待される利益に関する記述が含まれますが、これらに限定されるものではありません。これらの将来の見通しに関する記述は、現在の期待、推定、予測、および予想に基づいています。「期待する」、「予想する」、「はずである」、「信じる」、「希望する」、「目標とする」、「プロジェクト」、「目標」、「推定する」、「可能性がある」、「予測す

Press Release



る、「かもしれない」、「予定する」、「可能性がある」、「意図する」、「するであろう」などの言葉や、これらの言葉の変形および類似した表現は、これらの将来予想に関する記述を識別することを意図していますが、すべての将来予想に関する記述がこれらの識別語句を含んでいるわけではありません。将来の見通しに関する記述には多くのリスクや不確実性が伴い、その多くは当社が制御できない要因や状況を含んでいます。例えば、当社製品の市場は予想以上に、あるいは過去に比べてゆっくりと発展する可能性があり、当社の業績は予想以上に変動する可能性があります。また、収益認識などに関連して、当社の業績およびキャッシュ・フローが大幅に変動する可能性があります。

COVID-19、関連する公衆衛生対策、およびそれに伴う景気後退が当社のビジネスや業績に与える影響は、当社の予想を超えるものとなる可能性があります。当社のネットワークやデータ、または顧客のデータへの不正アクセスを許すようなネットワークまたはデータ・セキュリティ事故が発生した場合、当社の評判が低下する可能性があります。サービスの停止など、当社の技術に関連した中断や性能上の問題が発生する可能性があります。当社の転換社債型新株予約権付社債の償還期限を迎えられない可能性があります。世界的な経済状況が悪化する可能性があります。Okta と Auth0 の間で期待されたシナジー効果や業務効率が得られない可能性があります。当社の業績に影響を与える可能性のある潜在的な要因に関する詳細は、当社の最新の四半期報告書（Form 10-Q）および米国証券取引委員会へのその他の提出書類に記載されています。本プレスリリースに含まれる将来の見通しに関する記述は、本プレスリリースの日付時点での当社の見解を示すものであり、当社はこれらの将来の見通しに関する記述を更新する義務を負わず、またその意図もありません。

Okta について

Okta は、すべての人のアイデンティティとアクセスを安全に管理するベンダーニュートラルなサービスプロバイダーです。Okta が提供するプラットフォーム「Okta Identity Cloud」により、クラウド、オンプレミスを問わず、適切な人に適切なテクノロジーを適切なタイミングで安全に利用できるようにします。7,300 以上のアプリケーションとの事前連携が完了している「Okta Integration Network」を活用して、あらゆる人や組織にシンプルかつ安全なアクセスを提供し、お客様の潜在能力を最大限発揮できるように支援します。JetBlue、Nordstrom、Siemens、Slack、武田薬品、Teach for America、Twilio を含む 14,000 以上のお客様が Okta を活用して、職場や顧客のアイデンティティを保護しています。

<https://www.okta.com/jp/>